

研究主題

自他共に認め高め合い、自己肯定感を育む道德教育の探究

研究概要

平成27・28年度の2年間、文部科学省「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の委託を受け、小中と家庭・地域で連携し、地域の実態や課題に応じた特色ある道德教育の実践的研究を行いました。

昨年12月2日には研究発表を行い、道德の授業におけるTTのあり方や家庭・地域と連携した教材の活用を提案しました。また、2年間の研究の結果、「道德の授業を楽しいあるいはためになると感じているか」回答した生徒の割合が全国と比べて高くなりました。生徒は、理由として「他の人の意見をたくさん聞くことができたから」をあげており、学び合う活動などを取り入れた授業の工夫をしたことで、生徒自身が考えを深めたり広げたりすることができたことが要因と考えています。

しかし、道德アンケートの中の「自分には良いところがあると思っている」という質問に対しては、「あまりあてはまらない」と答えた生徒が増加しており、自己肯定感の低さにつながっている。成長に伴い、他者との比較において自分を捉え、劣等感を感じたり、他者と異なることへの不安から自分の個性の良さを認めたり伸ばしたりすることに消極的になったりする姿勢の裏返しではないかと考えています。

自分の短所も個性の一つであることを踏まえつつ、自分を受け入れ、新たな自分の発見へとつながる道德教育の充実が必要になると考え、研究主題を設定しました。

研究の重点

生徒の思考を整理する構造的な板書の仕方

生徒同士が自分思いを表現し、多様な価値観に触れることができる学びあう活動の

工夫

ねらいとする道德的価値に迫る発問（テーマ発問）の工夫

TT、ローテーション道德の実施